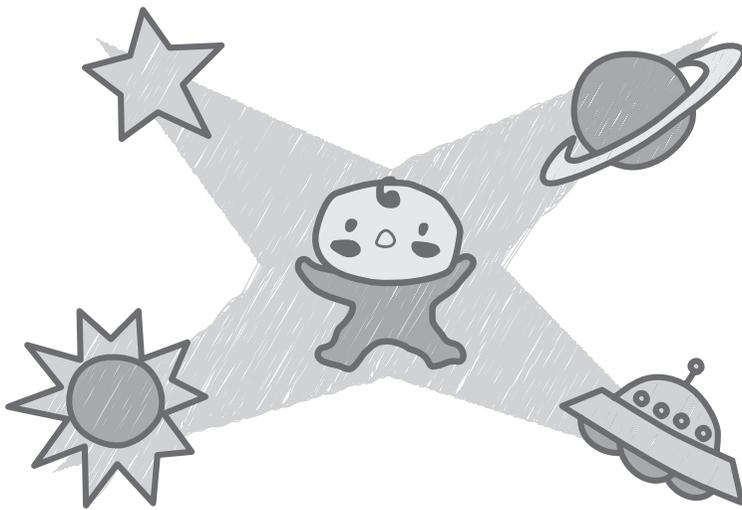


第4章

子育ての環境

高岡 純子



この節では、妊娠期・育児期の夫婦が住む地域の近所の様子、子どもの預け先や、妊娠・出産や子育てに関する情報源の利用の実態など、子育ての物理的なサポート環境についてみていきたい。

● 近所の様子

現在、住んでいる地域に、妊娠・出産や子育てに必要な環境（施設）がどの程度揃っているかをみてみよう。「お散歩できるような公園や遊歩道など」「公共の子育て支援施設（保健所、保育所、ファミリーサポートセンターなど）」「小児科や子どもを診てくれる病院」「自分（夫の場合は『配偶者』）のことを診てくれる産婦人科や助産院」の4項目について、徒歩20分程度までの歩いていける範囲にあるかどうか、ない場合は困る程度をきいている。

妊娠期妻では（図4-1-1）、徒歩20分圏内にあるのは「お散歩できるような公園や遊歩道など」71.4%、「小児科や子どもを診てくれる病院」57.0%、「公共の子育て支援施設」46.6%、「自分のことを診てくれる産婦人科や助産院」44.9%であり、「産婦人科・助産院」がもっとも少なかった。

また、「近所がないので困っている」（「非常に困っている」＋「困っている」＋「やや困っている」、以下同）比率は、多い順に「小児科や子どもを診てくれる病院」21.7%、「自分のことを診てくれる産婦人科や助産院」21.2%、「公共の子育て支援施設」20.1%、「お散歩できるような公園や遊歩道など」16.0%で、公園・遊歩道以外の施設は、困っていると感じている人が2割程度いる。これから生まれてくる子どものための小児科や病院にも関心が高いようである。妊娠期妻は、妊娠後期の人を対象としているが、「自分のことを診てくれる産婦人科や助産院」が「（徒歩20

分程度の）近所がない」人は全体の51.1%であり、そのうちの約4割は困っていると回答している。

妊娠期夫では（図4-1-1）、おおむね妊娠期妻と傾向は同じである。妻よりも若干多いのは「わからない」と回答している割合で「小児科や子どもを診てくれる病院」12.5%（妻7.6%）、「公共の子育て支援施設」18.6%（妻11.8%）である。妊娠後期に、配偶者を診てくれる産婦人科や助産院は知っているが、これから生まれる子どもに関する施設の有無については、知らない夫が1～2割弱いるようである。

図4-1-2は、育児期の妻・夫のグラフである。育児期妻では、徒歩20分圏内にあるのは、「お散歩できるような公園や遊歩道など」74.9%、「小児科や子どもを診てくれる病院」68.4%、「公共の子育て支援施設（保健所、保育所、ファミリーサポートセンターなど）」56.8%、「自分のことを診てくれる産婦人科や助産院」37.0%であった。妊娠後に比べて「小児科や子どもを診てくれる病院」「公共の子育て支援施設」が近所にある比率は高くなっている。0、1、2歳の子どもは病気にかかりやすく、頻繁に病院に通う時期であることや、子どもと一緒に子育て支援施設に通う機会があることから、そのような施設を近隣で見つかったり、あるいは施設が徒歩20分圏内にある地域に引っ越しをしたなどの理由が考えられる。

「近所がないので困っている」（非常に＋やや＋困っている）比率は、多い順に「自分の

ことを診てくれる産婦人科や助産院」22.1%、「公共の子育て支援施設」18.0%、「お散歩できるような公園や遊歩道など」17.7%、「小児科や子どもを診てくれる病院」13.5%であった。産婦人科や助産院がなく困っている（非常に十や十困っている）比率は、妊娠期と育児期でほとんど変化がみられず、出産後の状況は妊娠期と変わっていないようである。

育児期夫では、「お散歩できるような公園や遊歩道など」「配偶者のことを診てくれる産婦人科や助産院」以外の項目では、「わからない」と回答する割合が、妊娠期よりも低くなっている。特に「小児科や子どもを診てくれる病院」では、妊娠期夫12.5%、育児期夫2.4%となっている。子どもが生まれたことで夫も子どもにかかわりのある施設が近所にあるかどうか詳しくなるようである。

図4-1-1 近所の様子（妊娠期妻・夫）

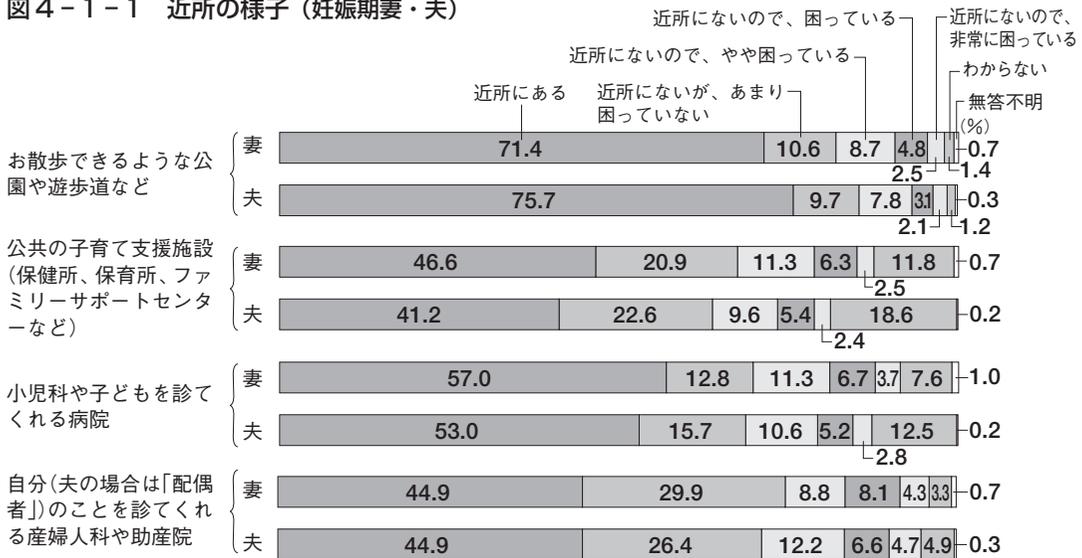
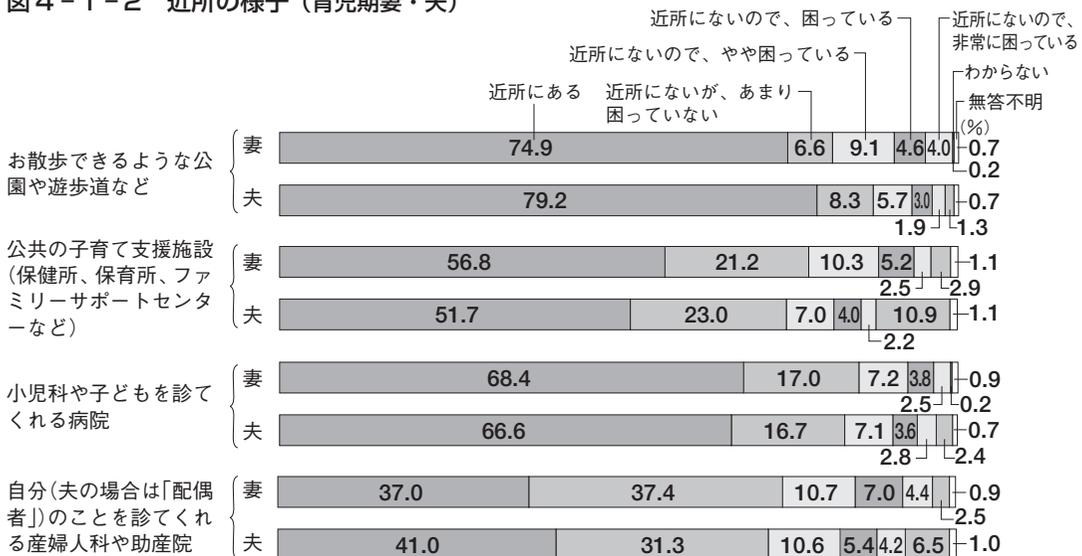


図4-1-2 近所の様子（育児期妻・夫）



●子どもの預け先

図4-1-3は、育児期妻に子どもを定期的に預けているかどうかをきいたものである。子どもを定期的に預けている人は18.0%、預けていない人は81.1%で、0～2歳児を持つ家庭の約5人に1人が定期的に子どもを預けている。子どもの年齢別にみると(図4-1-4)、0歳6.1%、1歳25.0%、2歳31.6%となっており、子どもの年齢が上がるにつれて、定期的に預ける割合は増加していく。

図4-1-5は、子どもを定期的に預けているのみを対象に、具体的な預け先についてきいたものである。預け先16項目のうちから定期的に子どもを預けているところを複数回答で選択してもらったところ、上位3項目は、「公立認可保育所」34.6%、「私立認可保育所」29.3%、「祖父母の家」16.4%であった。

子どもの定期的な預け先の中で、一番長い時間子どもを預けている場所(施設)の保育・保育者に対する信頼性について、きいてみたのが図4-1-6である。預け先との信

頼関係については、「〇〇ちゃんの保育を十分に行ってもらえていると思う」では、「あてはまる」「ややあてはまる」をあわせると95.5%が肯定的な回答をしている。また、「〇〇ちゃんは、預け先の保育者によくなっている」では、「あてはまる」「ややあてはまる」をあわせて92.0%である。どちらの項目も9割以上であることから、定期的な預け先の保育に対する信頼性は非常に高いと思われる。保育者との信頼関係では、「私は、〇〇ちゃんの預け先の保育者のことを信頼している」については、「あてはまる」「ややあてはまる」あわせて92.3%である。一方、「私は、〇〇ちゃんの預け先の保育者から信頼されていると思う」では、「あてはまる」「ややあてはまる」あわせて71.4%であった。母親が、子どもの預け先の保育者を信頼している割合は9割強と高いが、一方で自分が保育者に信頼されていると思う割合は7割強とやや低いようである。

図4-1-3 現在、託児施設や保育サービスなどに定期的に〇〇ちゃんを預けているか
(育児期妻)

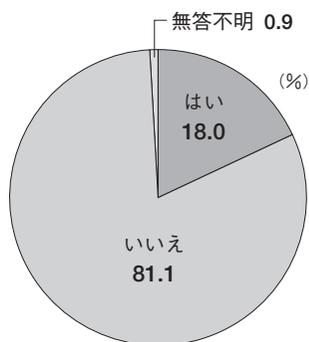
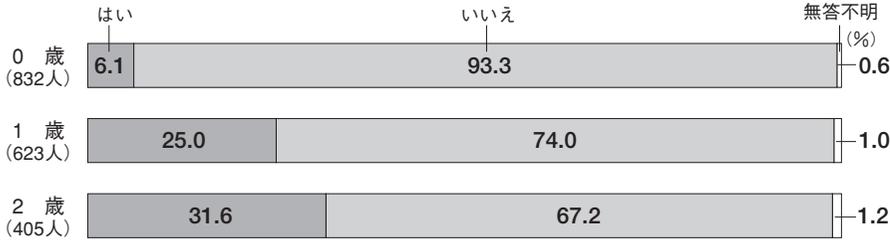
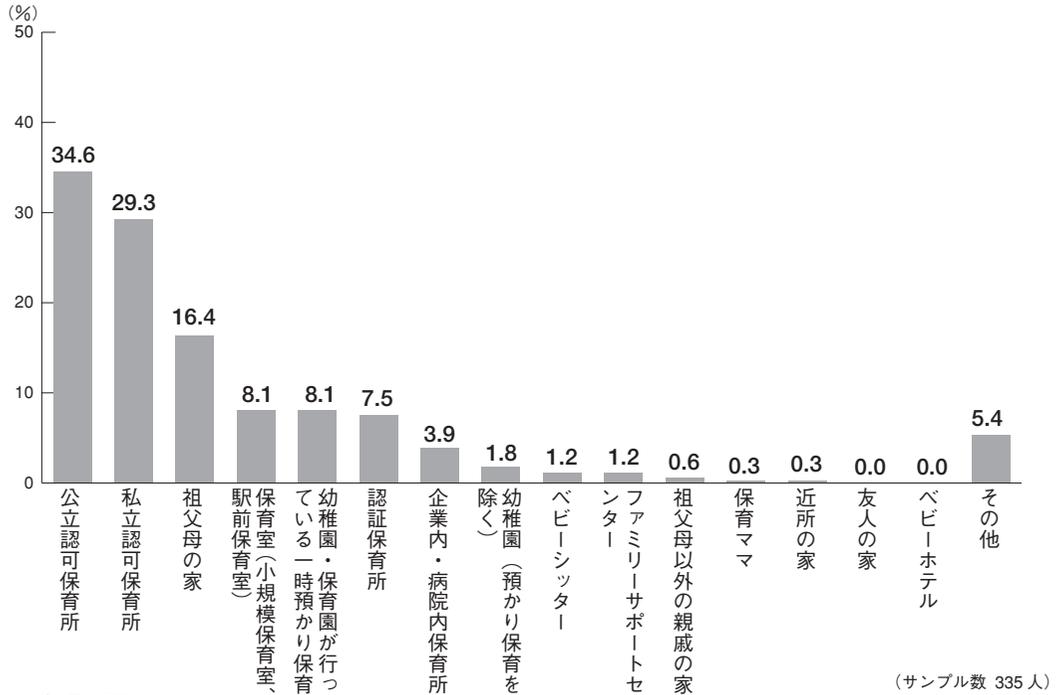


図4-1-4 現在、託児施設や保育サービスなどに定期的に〇〇ちゃんを預けているか
(育児期妻、子どもの年齢別)



注) 託児施設や保育サービスなどに定期的に子どもを預けている人のみ分析。

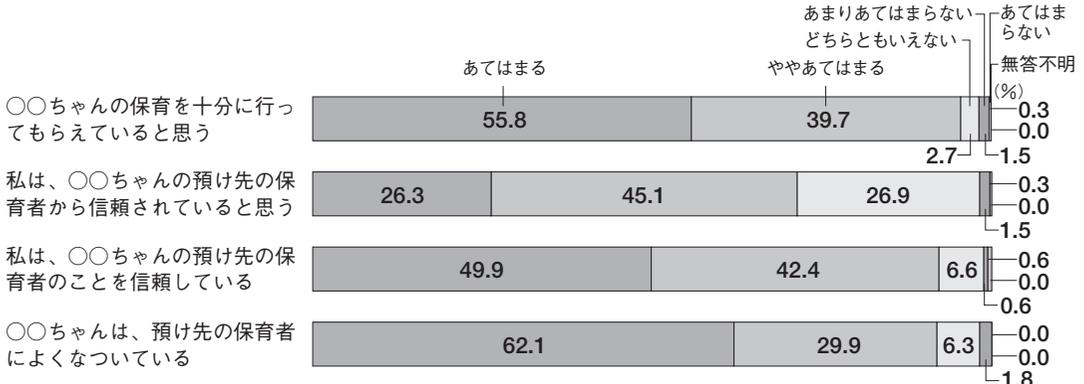
図4-1-5 定期的な預け先 (育児期妻)



注1) 複数回答。

注2) 託児施設や保育サービスなどに定期的に子どもを預けている人のみ分析。

図4-1-6 一番長い時間〇〇ちゃんを預けている場所や施設との関係 (育児期妻)



注) 託児施設や保育サービスなどに定期的に子どもを預けている人のみ分析。

(サンプル数 335人)

● 妊娠・出産や子育ての情報源

妊娠期と育児期で、それぞれ妊娠・出産や子育てにどのような情報源を利用するかをきいた(図4-1-7、図4-1-8)。全体として、妊娠期も育児期も、夫より妻のほうがすべての情報源をより多く利用している。妊娠期、育児期ごとに傾向をみてみよう。

妊娠・出産に関する情報源では(図4-1-7)、妻では第1位「雑誌」94.4%、第2位「インターネット」79.7%、第3位「メーカーカタログ・通信販売カタログ」69.0%で、夫では、第1位「雑誌」80.2%、第2位「インターネット」63.0%、第3位「書籍・雑誌別冊(ムック)」39.8%である。妻と夫で情報源に20ポイント以上の差が出ているのは「メーカーカタログ・通信販売カタログ」妻69.0%、夫30.3%、「テレビ・ラジオ」妻55.1%、夫31.3%となっている。

一方、育児期の子育て情報源については(図4-1-8)、妻・夫ともに、第1位「雑誌」妻92.6%、夫69.5%、第2位「テレビ・ラジオ」妻76.8%、夫53.9%、第3位「インターネット」妻70.4%、夫52.9%である。妻と夫で情報源で20ポイント以上の差が出ているのは、「メーカーカタログ・通信販売カタログ」妻42.1

%、夫12.4%、「書籍・雑誌別冊(ムック)」妻61.3%、夫35.4%、「雑誌」妻92.6%、夫69.5%、「テレビ・ラジオ」妻76.8%、夫53.9%である。

妊娠期には(図4-1-7)、「メーカーカタログ・通信販売カタログ」を69.0%の妻が情報源として利用しているのに対して、育児期妻では42.1%の利用にとどまる。逆に、「テレビ・ラジオ」は育児期妻では76.8%が利用しているが、妊娠期妻では55.1%の利用となっている。

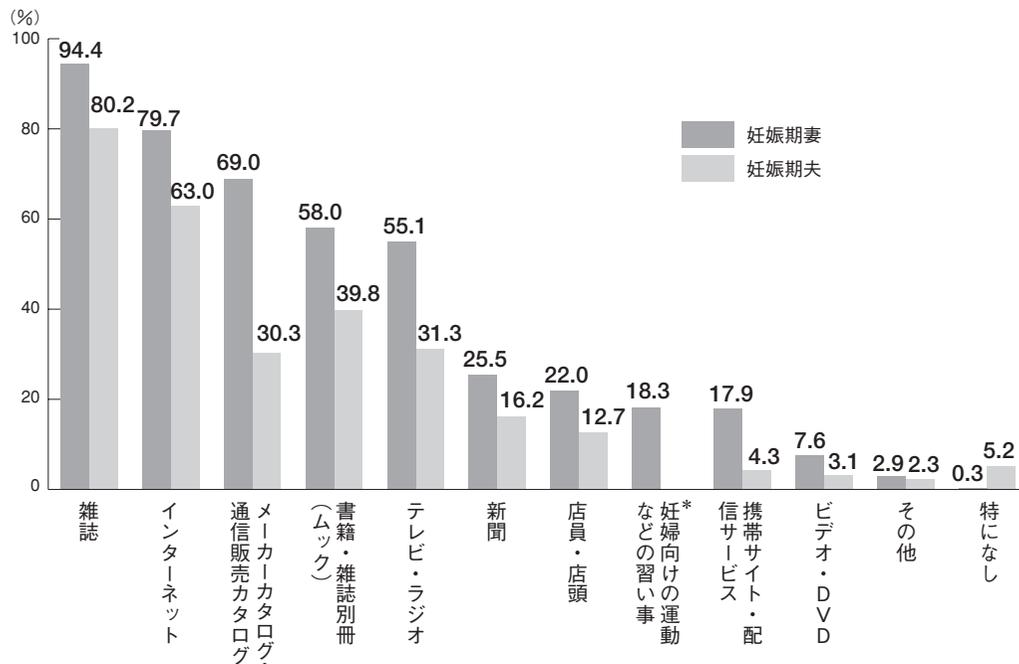
<参考>

2007年7月現在、育児に関するテレビ番組は、各放送局(NHK、民放5社/地上波)で、週に5番組程度放映されている。一部の番組には、妊娠・出産情報も含まれており、さまざまなスタイルで子育て情報が提供されている。

番組例:

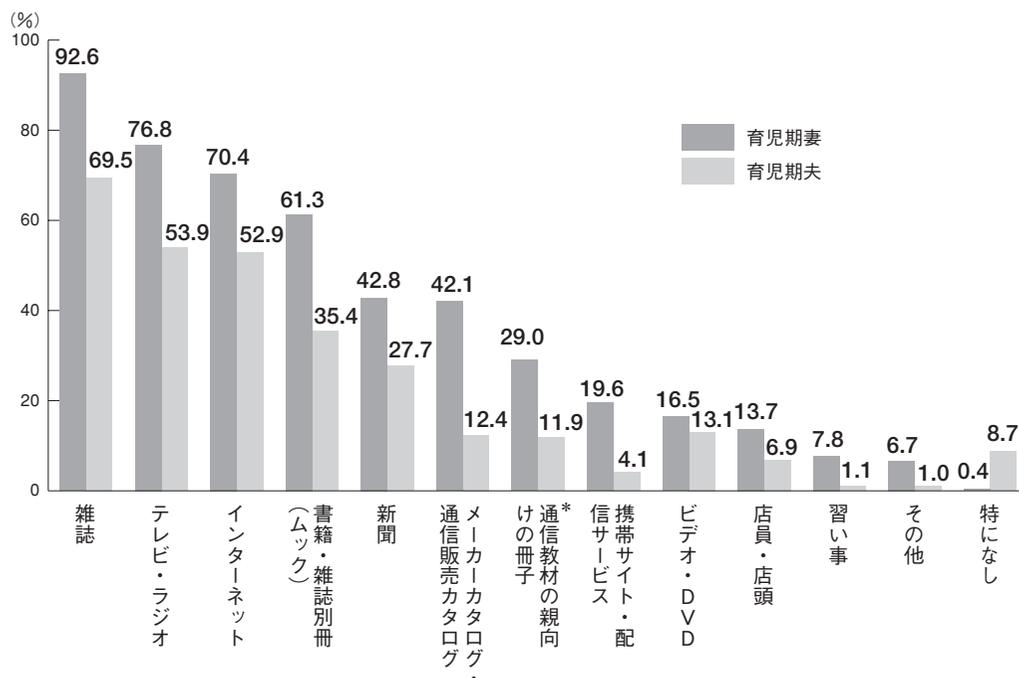
- ◇「すくすく子育て」(NHK教育): 妊娠中の健康・生活から、乳幼児の健康・ケアまで子育ての不安や悩みを扱う番組
- ◇「パパサウルス」(NHK総合): 子育てを楽しみたい父親を主役にした番組
- ◇「子育てパラダイス」(テレビ東京): 母親たちが、育児の楽しさや悩みを語り合う子育てトーク番組

図4-1-7 妊娠・出産に関する情報を得るために、利用したことがあるもの（妊娠期妻・夫）



注1) 複数回答。
注2) *夫は該当項目なし。

図4-1-8 子育てに関する情報を得るために、利用したことがあるもの（育児期妻・夫）



注1) 複数回答。
注2) *育児期のみの項目。

この節では、妊娠期・育児期の夫婦が持つ人的な子育てサポートの実態についてみていきたい。子育てに関する相談相手、地域での子どもを通したつきあい、祖父母との関係について取り上げている。

● 子育ての相談相手

妊娠・出産に関して、相談したり、話し合ったことがある人とその相談の頻度について、妊娠期の妻・夫にきいた。相談相手は、親族、友人・知人、専門家という3つのグループに分けられる。

まず、妊娠期妻をみると(図4-2-1)、妊娠・出産に関する相談を「いつもしている」割合が高いのは、「配偶者」75.7%、「自分の親」35.3%、「自分の友人・知人」23.8%、「自分のきょうだいや親戚」10.6%、「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の医師」10.0%、「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」8.4%の順であった。

グループ別の傾向をみると、親族群では、「配偶者」「自分の親」に続いて、「自分のきょうだいや親戚」「配偶者の親」への相談が、「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」をあわせると、約76～77%を占める。「配偶者のきょうだいや親戚」には、約半数が相談を「したことはない」と回答している。

友人・知人群への相談では、「自分の友人・知人」への相談が高い割合を示している(「いつもしている」+「時々している」+「1～2回はしたことがある」、95.8%)。「配偶者と共通の友人・知人」への相談は、「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」をあわせると、49.1%と、約2人に1人の割合となっている。「子育てサークルの仲間」や、「インターネットのメーリングリストなどの仲間」への相談は少な

く、「したことはない」が75～80%を占めている。

専門家群への相談については、「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」をあわせると、「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の医師」は75.5%、「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」は69.9%であった。「保健師」や「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」へ相談をしている人は、「保健師」18.1%、「子育てサービス窓口」7.8%である。「保育士・幼稚園教諭」は5.8%である。

次に、妊娠期夫の場合は(図4-2-2)、妊娠・出産に関する相談を「いつもしている」割合が高いのは、「配偶者」の73.0%のみで、その他の人は7%以下であり、夫が相談を「いつもしている」相手は、妻以外はほとんどいない。「自分の親」と「配偶者の親」への相談の割合は「いつもしている」がそれぞれ6.4%と、妻が「自分の親」にいつも相談する割合35.3%と比較すると、かなり低い。

相談を「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」をあわせた割合でみると、親族群では、「自分の親」83.3%、「配偶者の親」66.7%、「自分のきょうだいや親戚」52.5%、「配偶者のきょうだいや親戚」38.1%で、自分や配偶者の親族への相談経験は多い。友人・知人群では、「自分の友人・知人」78.4%、「配偶者と共通の友人・知人」44.1%で、「自分の友人・知人」への相談は、「自分の親」の次に多い。専門家群では、「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の医師」

26.4%、「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」17.9%、「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」4.8%、「保健師」4.0%、「保育士・幼稚園教諭」1.3%となっている。「おなかの赤ちゃんの産婦人科・小児科の医師」には、4人に1人が相談した経験を持っている。

育児期の場合をみてみよう。育児期妻では（図4-2-3）、子育てに関する相談を「いつもしている」割合が高いのは、「配偶者」73.1%、「自分の親」39.7%、「自分の友人・知人」26.4%、「子育てサークルの仲間」12.2%の順であった。

親族群では、「自分のきょうだいや親戚」「配偶者の親」への相談は、「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」をあわせると、約71～73%である。「配偶者のきょうだいや親戚」は、相談を「したことはない」のは52.5%であった。

友人・知人群への相談では、「自分の友人・知人」への相談頻度が高く（94.8%）、ついで「子育てサークルの仲間」49.8%、「配偶者と共通の友人・知人」42.1%、「インターネットのメーリングリストなどの仲間」18.2%である（いずれも「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」の合計値）。

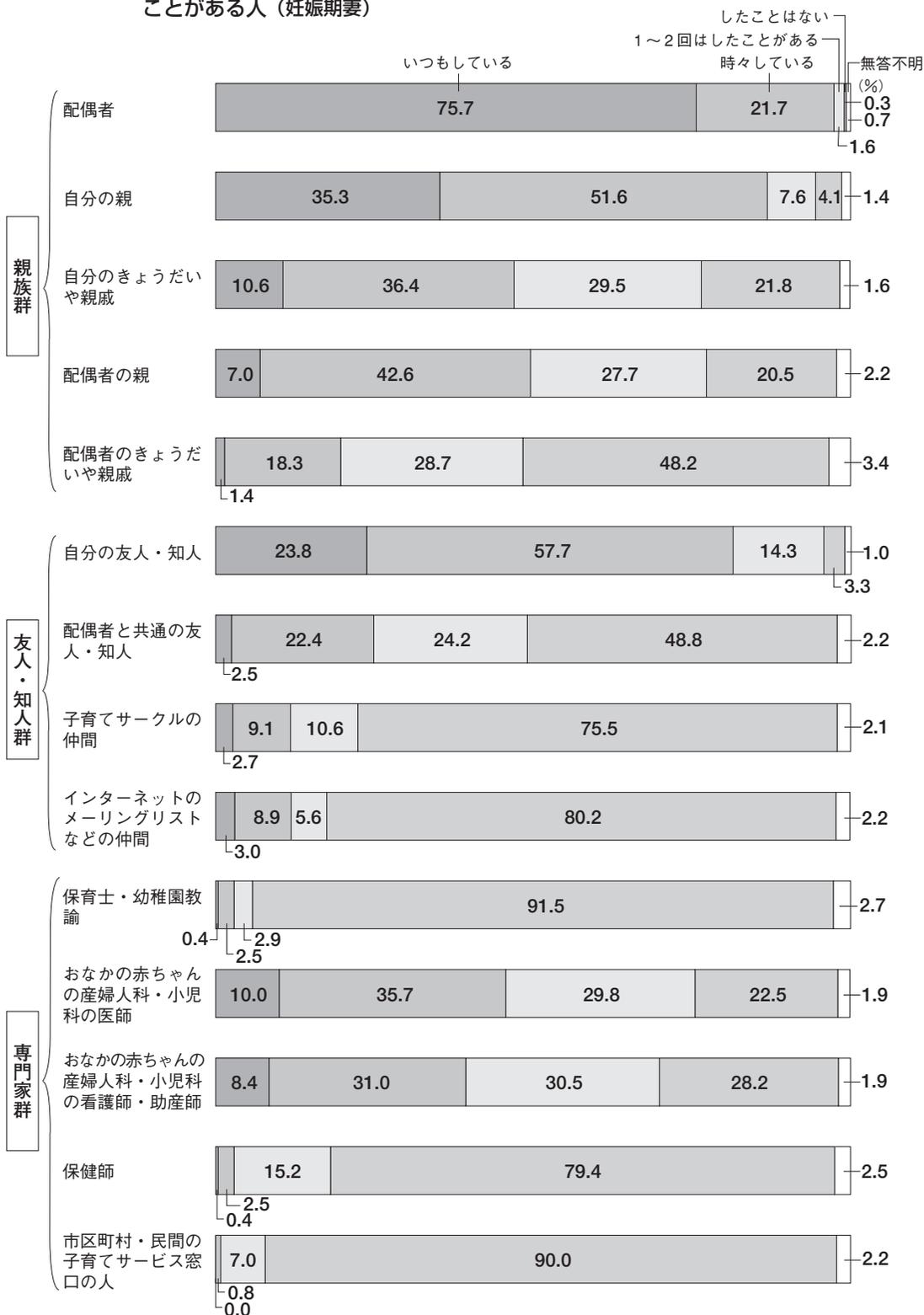
専門家群への相談については、「保健師」がもっとも高く、「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」で

56.0%である。育児期妻で「保健師」の割合が高いのは、地域によっては、保健師が出産した人の家庭を訪問したり、乳児検診で、母親の相談にのる機会があるためであろう。ついで、「〇〇ちゃんの子育てサークルの医師」54.5%、「〇〇ちゃんの子育てサークルの看護師・助産師」45.9%、「保育士・幼稚園教諭」32.2%、「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」21.7%と続く。

育児期夫の場合では（図4-2-4）、子育てに関する相談を「いつもしている」割合が高いのは、「配偶者」68.6%のみで、その他は6%以下であった。「自分の親」と「配偶者の親」への相談の割合は「いつもしている」が5%台と低い、これも妊娠期夫と傾向は同じである。

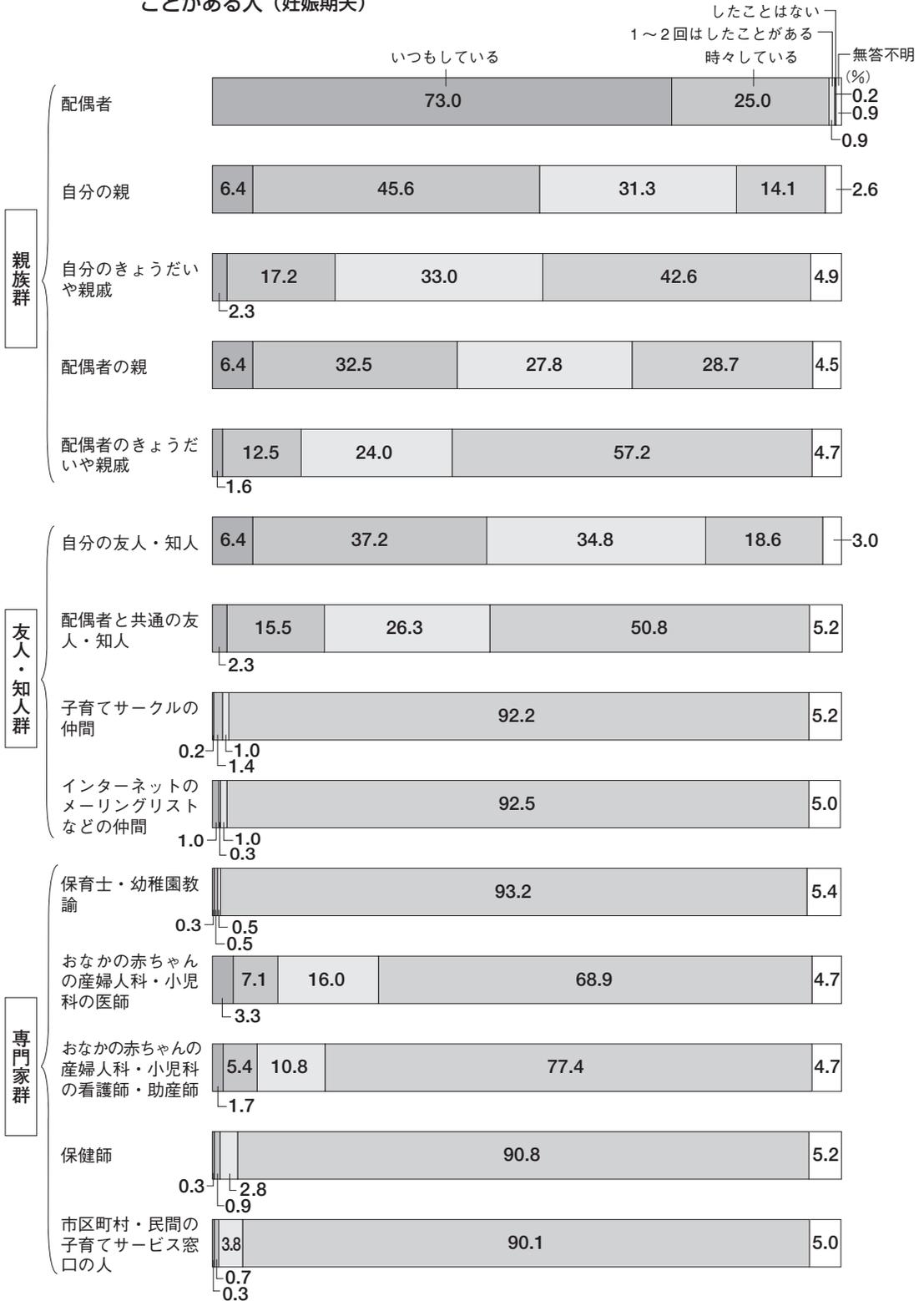
相談を「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」をあわせた割合でみると、親族群では、「自分の親」79.7%、「配偶者の親」67.3%、「自分のきょうだいや親戚」46.3%、「配偶者のきょうだいや親戚」36.8%で、友人・知人群では、「自分の友人・知人」72.9%、「配偶者と共通の友人・知人」39.3%、専門家群では、「〇〇ちゃんの子育てサークルの医師」20.9%、「〇〇ちゃんの子育てサークルの看護師・助産師」14.5%、「保育士・幼稚園教諭」7.9%、「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」5.4%となっている。

図4-2-1 おなかの赤ちゃんの妊娠・出産や子育てについて、相談したり話し合ったりしたことがある人（妊娠期妻）



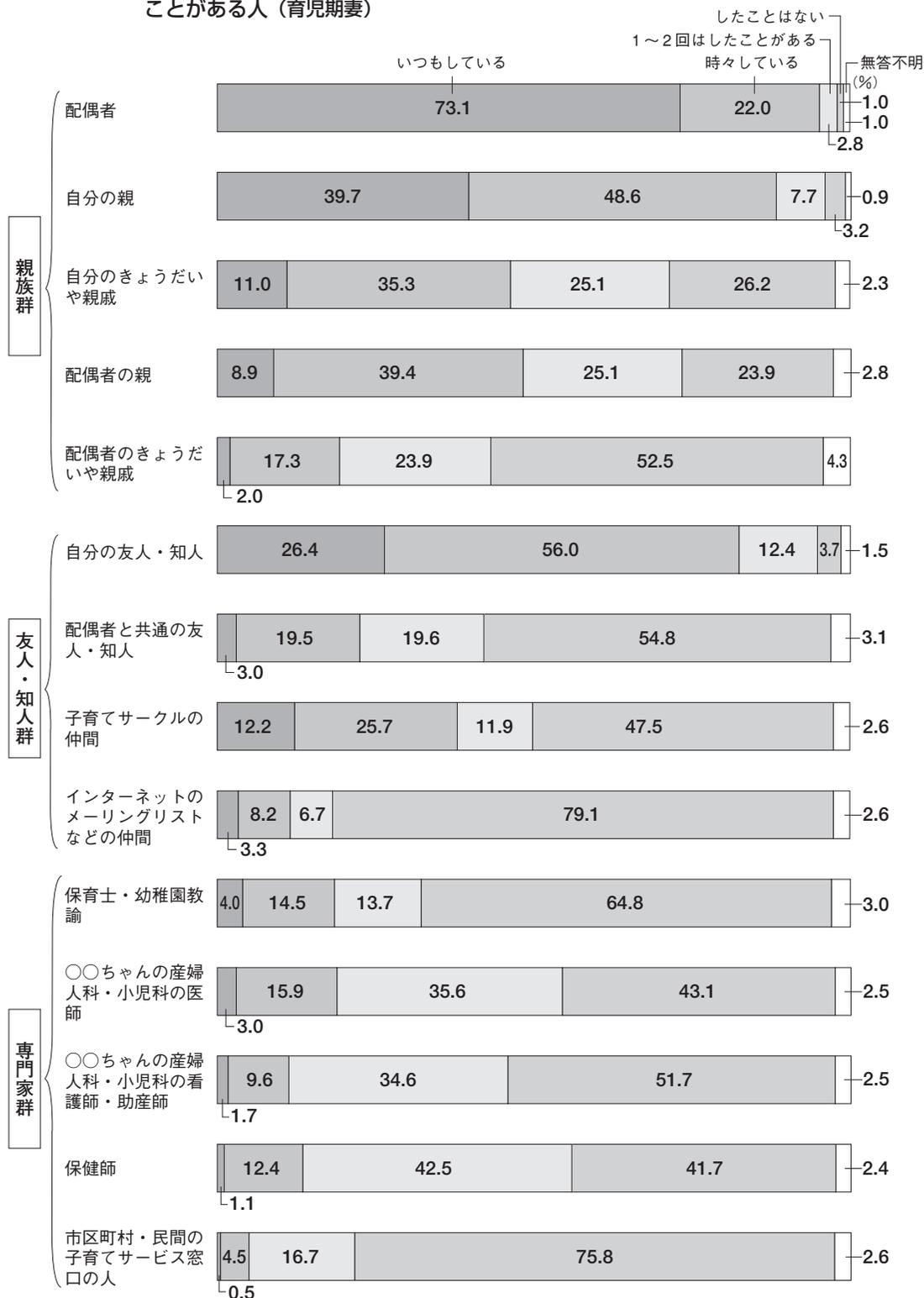
注) 調査票では、「あなたの親」「あなたのきょうだいや親戚」「あなたの友人・知人」となっているが、ここでは本文にあわせて「あなたの」ではなく「自分の」と表記している。

図4-2-2 おなかの赤ちゃんの妊娠・出産や子育てについて、相談したり話し合ったりしたことがある人（妊娠期夫）



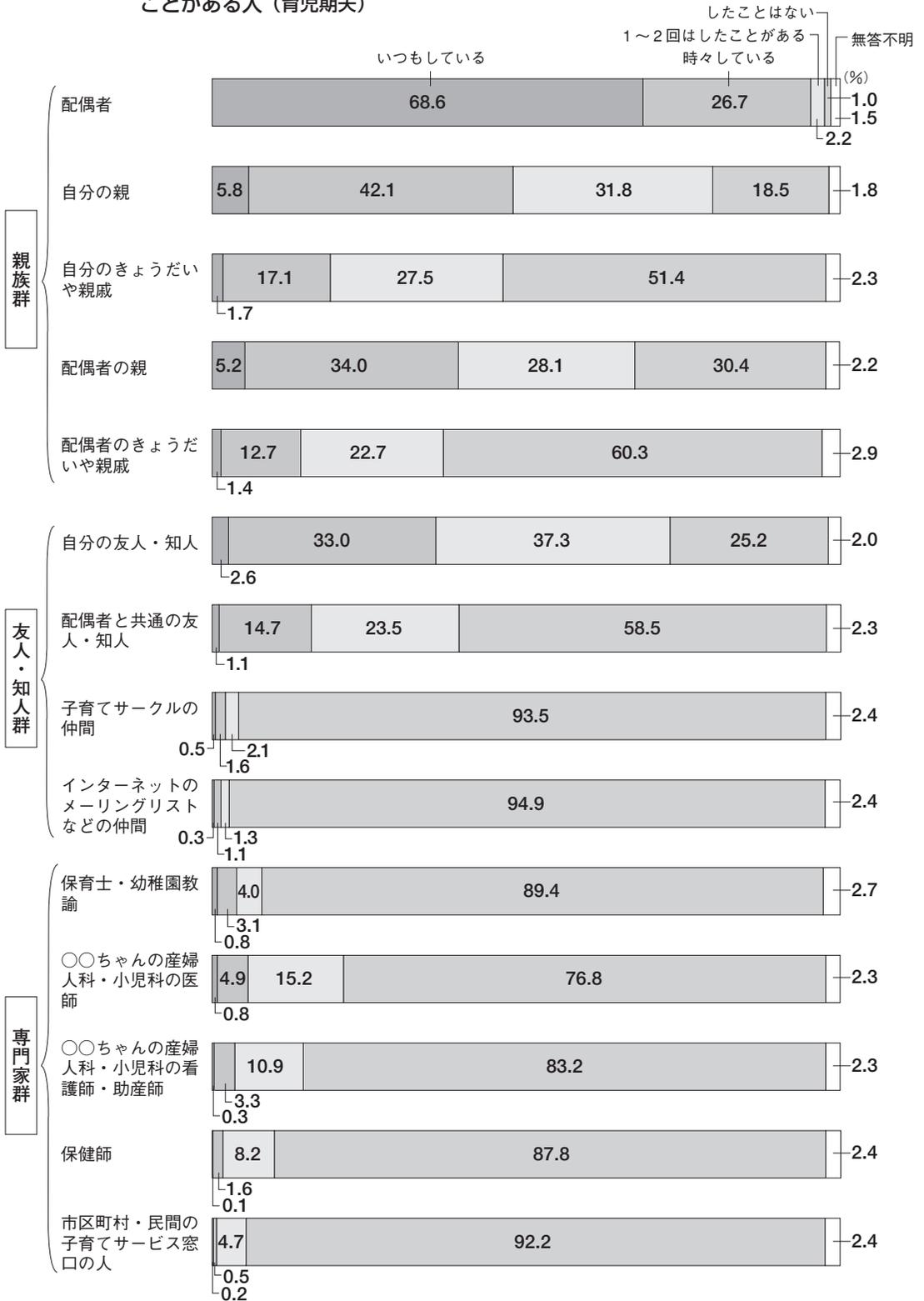
注) 調査票では、「あなたの親」「あなたのきょうだいや親戚」「あなたの友人・知人」となっているが、ここでは本文にあわせて「あなたの」ではなく「自分の」と表記している。

図4-2-3 ○○ちゃんの妊娠・出産や子育てについて、相談したり話し合ったりしたことがある人（育児期妻）



注) 調査票では、「あなたの親」「あなたのきょうだいや親戚」「あなたの友人・知人」となっているが、ここでは本文にあわせて「あなたの」ではなく「自分の」と表記している。

図4-2-4 ○○ちゃんの妊娠・出産や子育てについて、相談したり話し合ったりしたことがある人（育児期夫）



注) 調査票では、「あなたの親」「あなたのきょうだいや親戚」「あなたの友人・知人」となっているが、ここでは本文にあわせて「あなたの」ではなく「自分の」と表記している。

●地域での子どもを通じたつきあい

育児期の妻・夫に、子どもを通じたつきあいについてたずねたものが図4-2-5である。「○○ちゃんを預けられる人」では、妻・夫ともに約半数が「1人もいない」と回答している。その他の項目では、妻のほうが夫よりもつきあいの人数が多い。「○○ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人」では、約半数の妻が「3人以上いる」と答えているが、夫の場合は38.9%で、4人に1人は「1人もいない」と回答している。「子育ての悩みを相談できる人」では、妻は、悩みを相談できる人が「3人以上いる」が39.5%であるのに対して、夫は19.0%である。「子育ての悩みを相談できる人」が「1人もいない」と回答したのは、妻が22.7%、夫が45.7%で、妻と夫の回答に23.0ポイントの開きがみられた。「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」では、妻は「3人以上いる」が40.5%、夫は17.2%であり、「1人もいない」では、妻が25.6%に対して、夫は51.8%であった。地域での子どもを通じたつきあいでは、「○○ちゃんを預けられる人」以外の項目で、妻はいずれも「3人以上いる」が4割程度かそれ以上で、夫と比較すると、つきあいが豊富である。

子どもの年齢別にみると、子どもを通じた地域のつきあいは、年齢が上がるにつれて増加する傾向にある。「○○ちゃんを預けられる人」(図4-2-6)で「1人もいない」は、妻では0歳58.4%、1歳56.8%、2歳48.1%と減少していく。「○○ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人」(図4-2-7)で「3人以上いる」は、妻で0歳46.5%、1

歳52.5%、2歳58.3%と、増えていく(夫も同様の傾向である)。子どもの年齢が低いほど、子育てを介したつきあいの少ない生活を送っていることが推測できる。

図4-2-8は、地域での子どもを通じたつきあいと、子育ての充実感、成長感、負担感、不安感についての関連をみたものである。それぞれ、以下の項目をもとにしている。

充実感は「子どもを育てることに充実感を味わっている」、成長感は「子育てに自信が持てるようになった」、負担感は「子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい」、不安感は「子どもがうまく育っているか不安になる」である。「子育ての悩みを相談できる人」が1人もいない群と1人以上いる群でみると、充実感・成長感では、相談できる人が1人以上いる群のほうが高く、1人もいない群のほうが低かった(「あてはまる」+「ややあてはまる」で、「子どもを育てることに充実感を味わっている(充実感)」では5.4ポイント、「子育てに自信が持てるようになった(成長感)」では11.7ポイントの差)。また、負担感・不安感では、相談できる人が1人以上いる群のほうが負担感や不安感が低く、1人もいない群のほうが高かった(「子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい(負担感)」では8.3ポイント、「子どもがうまく育っているか不安になる(不安感)」では7.3ポイントの差)。この2つの群の傾向は、他の項目(「○○ちゃんを預けられる人」「○○ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人」「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」)でも、同様であった。

図4-2-5 地域での子どもを通じたつきあい（育児期妻・夫）

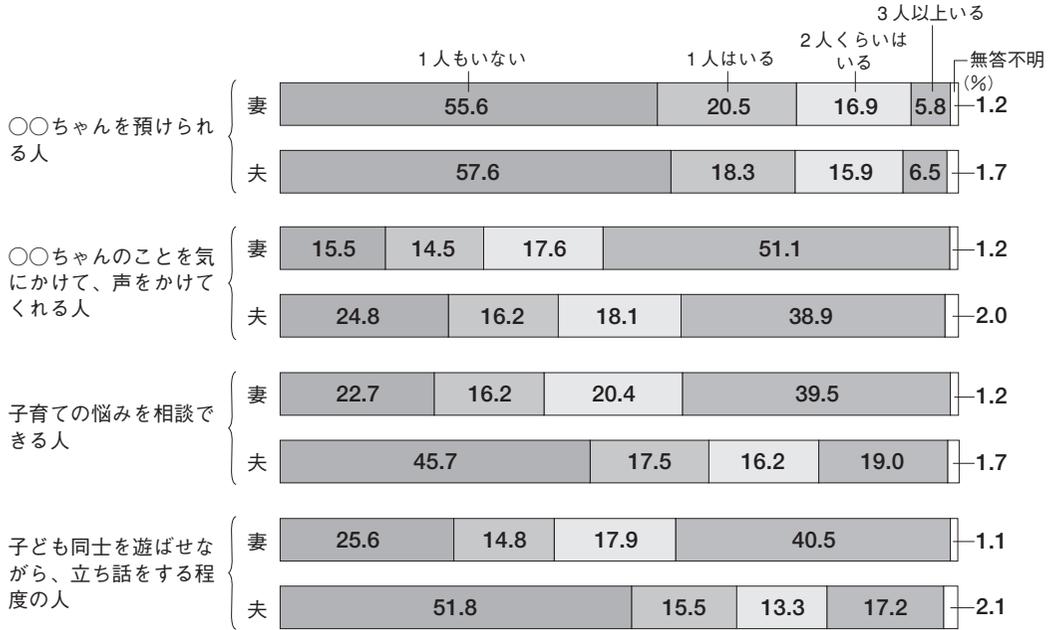


図4-2-6 〇〇ちゃんを預けられる人（育児期妻、子どもの年齢別）

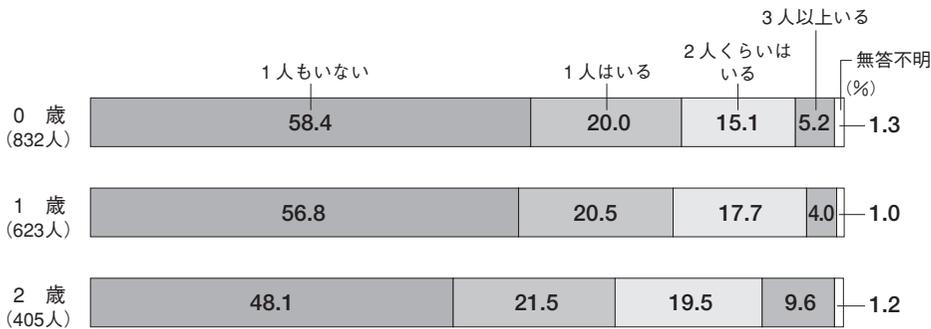


図4-2-7 〇〇ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人（育児期妻、子どもの年齢別）

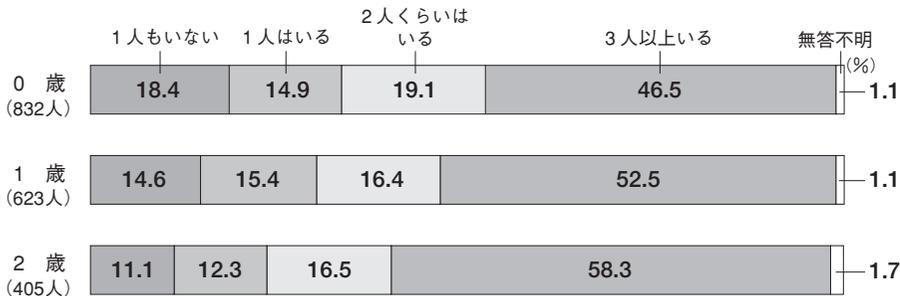
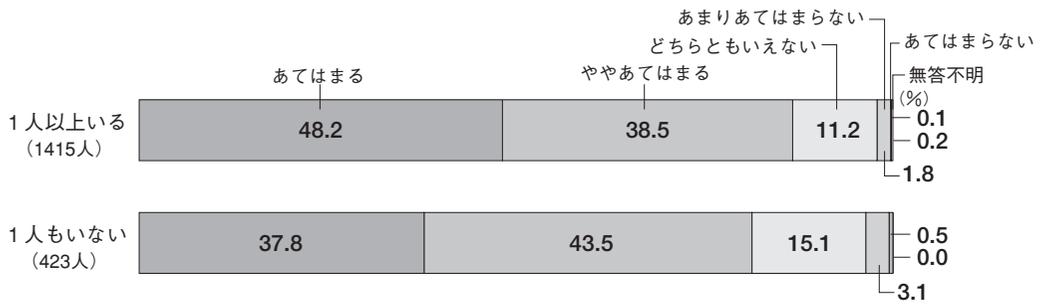
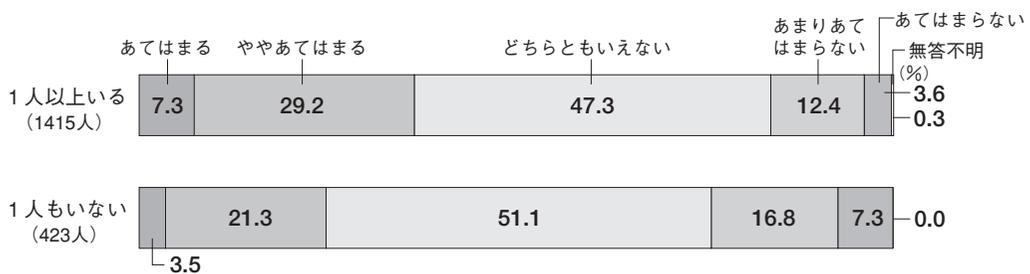


図4-2-8 地域での子どもを通じたつきあいと子育て意識（育児期妻）

① 子どもを育てることに充実感を味わっている（子育ての悩みを相談できる人）



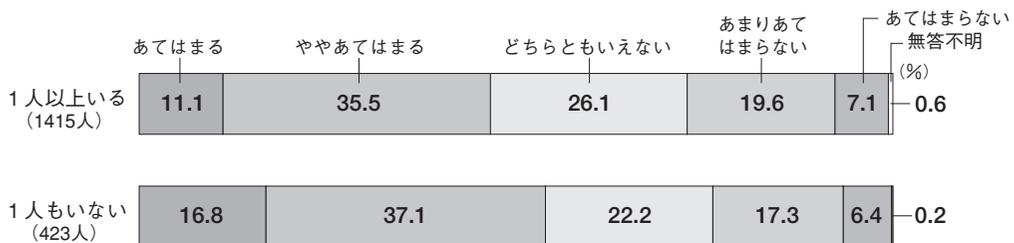
② 子育てに自信が持てるようになった（子育ての悩みを相談できる人）



③ 子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい（子育ての悩みを相談できる人）



④ 子どもがうまく育っているか不安になる（子育ての悩みを相談できる人）



● 祖父母との関係

人的な子育てサポートの1つとして、祖父母の存在が挙げられる。ここでは、祖父母世代との交流についてみていきたい。妻には、妻の実の両親について(以下、妻側の祖父母)、夫には夫の実の両親(以下、夫側の祖父母)についてきている。

図4-2-9は、祖父母と会う頻度について、育児期の妻・夫にきいたものである。妻側の祖父母は、「ほぼ毎日」「ほぼ毎週」をあわせて52.3%、夫側の祖父母は38.2%であった。妻側の祖父母のほうが14.1ポイント高く

なっている。

また、自宅と祖父母の実家との距離をきいたものが図4-2-10である。「同居・二世帯住宅・同じ敷地内」に住んでいるのは、妻側の祖父母が10.4%で、夫側の祖父母が14.5%で、夫側の祖父母と近居する割合がやや高かった。祖父母と会う頻度、実家との距離は妻の就業状況と関連があり、仕事を持っている妻は仕事を持っていない妻よりも祖父母と頻繁に会い、近居している傾向がみられた。詳しくは第5章第4節を参照されたい。

図4-2-9 祖父母との接触頻度(育児期妻・夫)

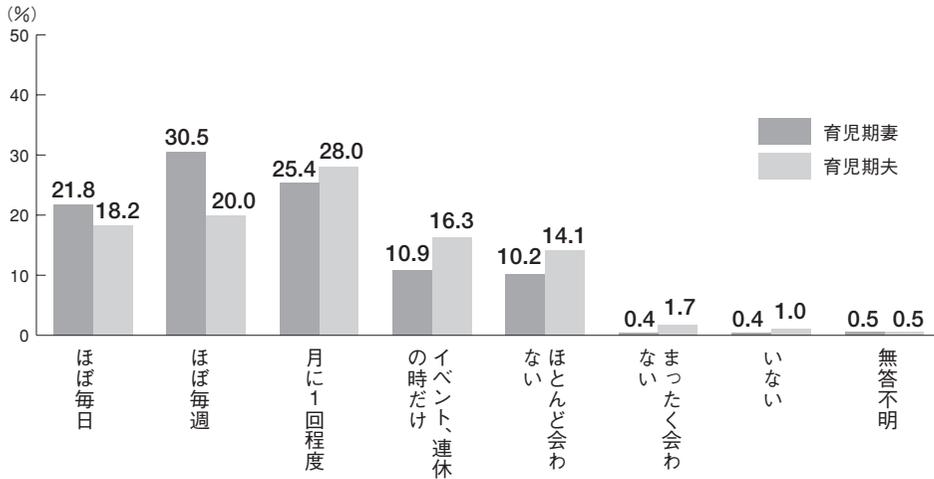


図4-2-10 自宅と実家との距離(育児期妻・夫)

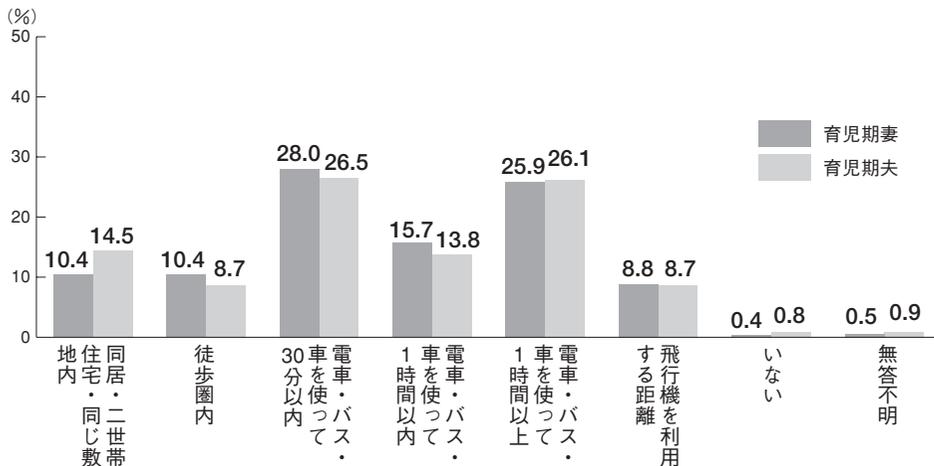


図4-2-11、図4-2-12は、祖父・祖母それぞれが子育ての頼りになるかについてきいたものである。祖母については、「とても頼りになる」「やや頼りになる」で、妻側の祖母が84.6%、夫側の祖母が62.3%で、妻側の祖母のほうが22.3ポイント高くなっている。子どもの年齢別にみると、「とても頼りになる」は、0歳58.9%、1歳53.9%、2歳52.8%で、子どもが0歳児の時にもっとも祖母を頼りにしているようである。祖父については、「とても頼りになる」「やや頼りになる」で、妻側の祖父が50.1%、夫側の祖父が38.7%で、妻側の祖父のほうが11.4ポイント高かった。妻のほうが夫よりも自分の親に頼っている割合が高い。

図4-2-13、図4-2-14は、妻側の祖父母が、子育ての頼りになるかどうかと、妻の子育て意識との関連についてみたものである。妻側の祖父母が、子育ての頼りになる群（「とても頼りになる」＋「やや頼りになる」）と頼りにならない群（「あまり頼りにならない」＋「まったく頼りにならない」）に分け、子育て充実感・子育て不安感との関連をみた（子育て充実感は、「子どもを育てることに充実感を味わっている」という項目、子育て不安感は、「子どもがうまく育っているか不安になる」という項目を取り上げている）。

妻の祖母についてみてみよう（図4-2-13）。子育て充実感（「子どもを育てることに充実感を味わっている」）では、「あてはまる」＋「ややあてはまる」の回答は、子育てに頼りになる群では86.3%、頼りにならない群では79.2%で、7.1ポイントの差である。妻側の祖母が子育てに頼りになる群のほうが、頼りにならない群よりも、妻の子育て充実感が高くなっている。祖父の場合も同様の傾向

で（図4-2-14）、子育てに頼りになる群（88.1%）と頼りにならない群（82.1%）との差は、6.0ポイントであった。

一方、子育て不安感（「子どもがうまく育っているか不安になる」）では、逆の傾向となっており、妻側の祖母（図4-2-15）が子育てに頼りになる群（47.0%、「あてはまる」＋「ややあてはまる」、以下同）のほうが、頼りにならない群（55.0%）よりも、妻の子育て不安感が低くなっている（8ポイントの差）。祖父の場合は頼りになる群47.1%、頼りにならない群50.9%で、その差は3.8ポイントと少なかった（図4-2-16）。妻の祖父母が子育ての頼りになるかどうかは、妻の子育て充実感・不安感に影響を及ぼしているようである。

図4-2-17、図4-2-18は、自宅と祖父母の実家との距離と、妻側の祖父母は子育ての頼りになるかどうかをきいたものである。

祖母についてみてみると（図4-2-17）、自分の家と祖母の家の距離が同居や同じ敷地内もしくは電車・バス・車を使って「30分以内」の場合、子育てに「とても頼りになる」は63.4%を占めている。一方「30分より遠い」場合では、48.8%であり、その差は14.6ポイントである。祖父の場合も同様の傾向で（図4-2-18）、同居や同じ敷地内もしくは電車・バス・車を使って「30分以内」の場合は、子育てに「とても頼りになる」は24.1%、「30分より遠い」場合では15.4%で、その差は8.7ポイントであった。

交通機関を使って30分以内で、互いの家を行き来できる距離にある場合は、自分の祖父母を子育ての頼りにしている妻が多いようである。

図4-2-11 祖母は子育ての頼りになるか（育児期妻・夫）

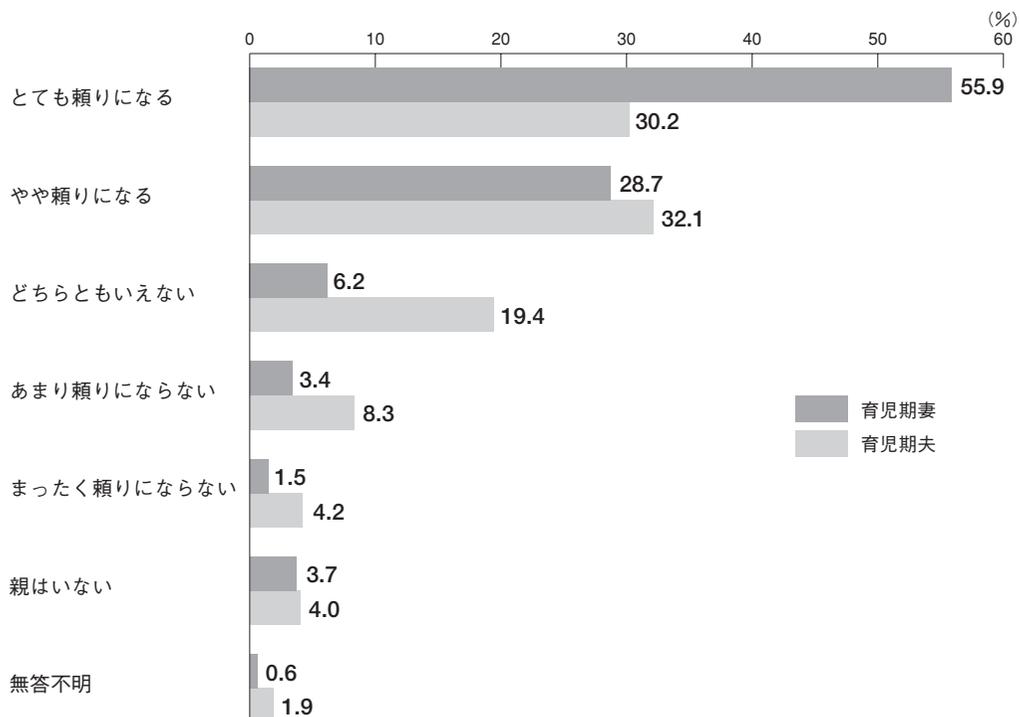


図4-2-12 祖父は子育ての頼りになるか（育児期妻・夫）

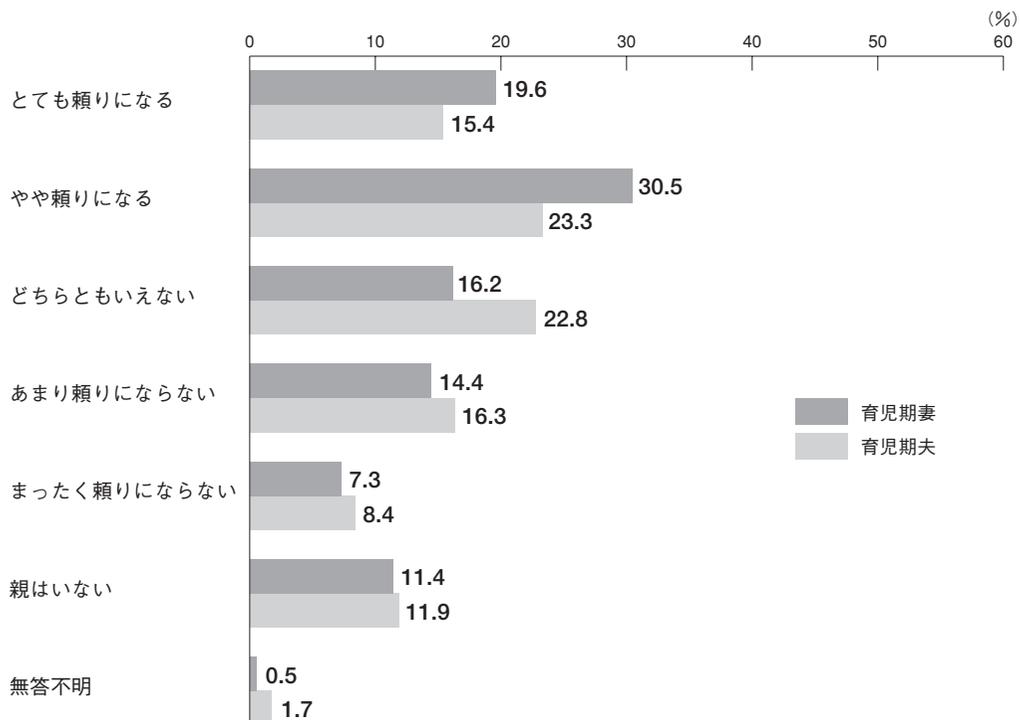
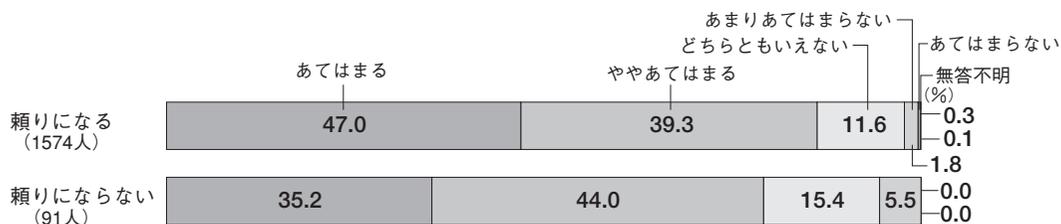


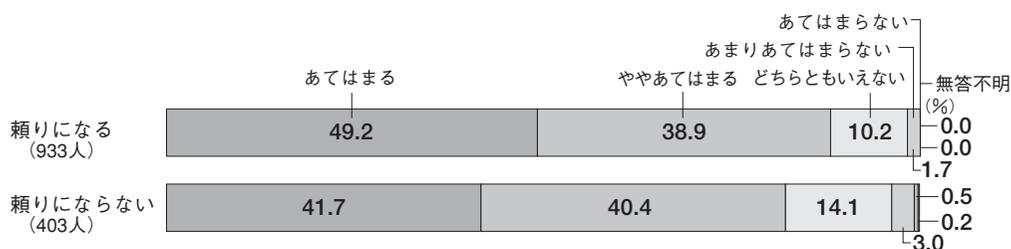
図 4-2-13 子どもを育てることに充実感を味わっている（祖母は子育ての頼りになるか、育児期妻）



注1) 頼りになる＝「とても頼りになる」＋「やや頼りになる」、頼りにならない＝「あまり頼りにならない」＋「まったく頼りにならない」。

注2) 「祖母は子育ての頼りになるか」の選択肢のうち、「どちらともいえない」「親はいない」「無答不明」は除く。

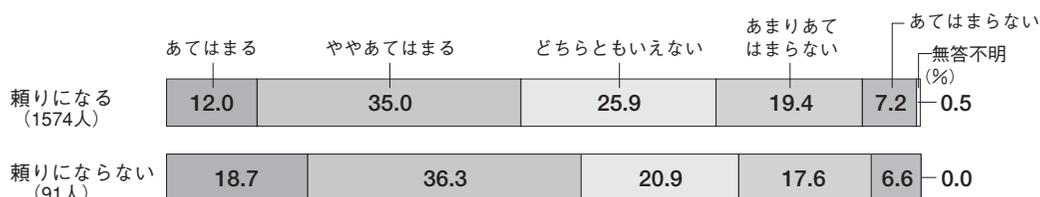
図 4-2-14 子どもを育てることに充実感を味わっている（祖父は子育ての頼りになるか、育児期妻）



注1) 頼りになる＝「とても頼りになる」＋「やや頼りになる」、頼りにならない＝「あまり頼りにならない」＋「まったく頼りにならない」。

注2) 「祖父は子育ての頼りになるか」の選択肢のうち、「どちらともいえない」「親はいない」「無答不明」は除く。

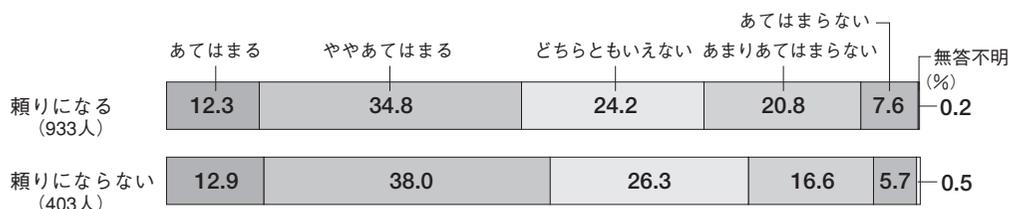
図 4-2-15 子どもがうまく育っているか不安になる（祖母は子育ての頼りになるか、育児期妻）



注1) 頼りになる＝「とても頼りになる」＋「やや頼りになる」、頼りにならない＝「あまり頼りにならない」＋「まったく頼りにならない」。

注2) 「祖母は子育ての頼りになるか」の選択肢のうち、「どちらともいえない」「親はいない」「無答不明」は除く。

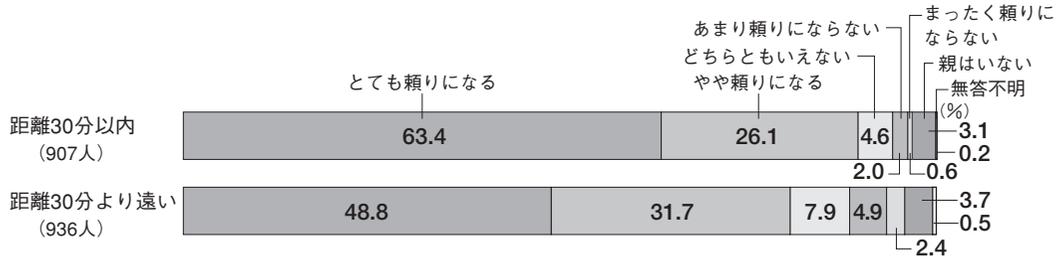
図 4-2-16 子どもがうまく育っているか不安になる（祖父は子育ての頼りになるか、育児期妻）



注1) 頼りになる＝「とても頼りになる」＋「やや頼りになる」、頼りにならない＝「あまり頼りにならない」＋「まったく頼りにならない」。

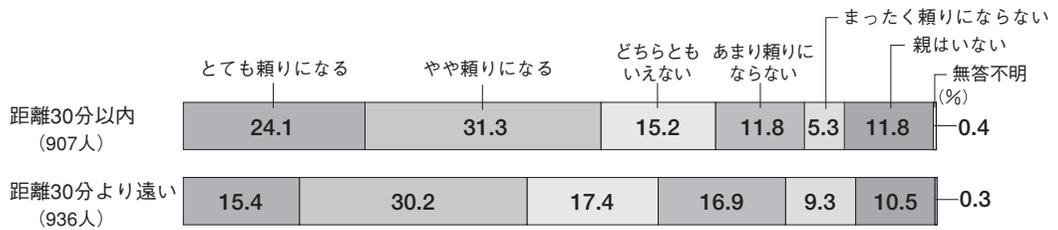
注2) 「祖父は子育ての頼りになるか」の選択肢のうち、「どちらともいえない」「親はいない」「無答不明」は除く。

図4-2-17 自宅と実家との距離（祖母は子育ての頼りになるか、育児期妻）



注1) 距離30分以内＝「同居・二世帯住宅・同じ敷地内」＋「徒歩圏内」＋「電車・バス・車を使って30分以内」、距離30分より遠い＝「電車・バス・車を使って1時間以内」＋「電車・バス・車を使って1時間以上」＋「飛行機を利用する距離」。
 注2) 「自宅と実家との距離」の選択肢のうち、「親はいない」「無答不明」は除く。

図4-2-18 自宅と実家との距離（祖父は子育ての頼りになるか、育児期妻）



注1) 距離30分以内＝「同居・二世帯住宅・同じ敷地内」＋「徒歩圏内」＋「電車・バス・車を使って30分以内」、距離30分より遠い＝「電車・バス・車を使って1時間以内」＋「電車・バス・車を使って1時間以上」＋「飛行機を利用する距離」。
 注2) 「自宅と実家との距離」の選択肢のうち、「親はいない」「無答不明」は除く。